

先進的なICT教育の次なる一手

国際教育で男子校の先陣を切る
「グローバルコース」を設立

体験と学問の両立に励む「行学二道」を校訓に掲げ、6年間を通じて先進的な教育を行う佼成学園中学校・高等学校。近年は、グローバル人材の育成を目的に、国際教育プログラムを強化してきた。そして、次年度からは男子校としてはさきがけとなる「グローバルコース」を設ける。同校の新たな取り組みについて話を伺った。



中1の8月に実施されるモンゴル異文化プログラムでは、ゲルの組み立てやホームステイも体験する

グローバルコース新設で
「話せる」英語の習得をめざす

佼成学園中学校・高等学校は2021年度より、これまでの国際教育プログラムを土台に、新たな「グローバルコース」を設置する。中学と高校に各1クラス、35名程度の募集を開始していく。

新コースの土台となるのは、2016年より始まったGLP（グローバル・リーダー・プロジェクト）だ。これは選抜生を対象に、グローバルリーダーの育成をめざし、海外研修や語学研修を実施するというもの。毎年、入学時に選抜される25名程度のGLP生は、各クラスに分散しているため、これまでは放課後などを中心にプログラムを展開してきた。しかし、新コースでは1クラスにまとまることで通常の授業を活用できるため、放課後には部活などへも専念できる。今回、同コースを設立する背景には、5年目のGLPが年々深化して、生徒からのニーズが高まっていることがある。入学時に募るGLP希望者は初年度が全体の40%程度だったが、5年目の今年度は70%近くまで上昇している。同校校長の榎並紳吉先生は、「新コースは、まず1クラスでスタートしますが、早い段階で2クラスに増やすことも検討しています」と話す。

3時間担当しているが、新コースではネイティブ講師の授業を1〜2時間追加していく方針だ。

「新コースでは中学で英検準1級、高校で1級取得を目標とします。さらに、海外留学でも通用するTOEFL、IELTSの対策も強化していきます」と、英語科教諭で学年主任・国際交流委員長の小塩雅先生は話す。

**海外研修は「同世代交流」が特徴
先進的なICT教育も留学を後押し**

新コースの海外研修プログラムは、GLPの訪問先を当初は受け継ぎ徐々に拡充していく予定だ。GLPではこれまで、中1がモンゴル「異文化体験プログラム」、中2がフィリピン「マニラ平和学習プログラム」、中3がタイ「フィールド実践プログラム」を行ってきた。榎並校長は「この5年間を通じて、各拠点との協力体制や安全性が確保できているため、さらなる深化が見込めます」と話す。

各プログラムは現地学習のみならず、事前学習・事後学習も充実しているのが特徴だ。例えばモンゴル研修では、事前学習からモンゴル人留学生が同校を訪れて、生徒と交流する。出発する前からモンゴル語やその文化に触れられることで、生徒の学習意欲は大きく高まる。事後学習でもモンゴル大使館で活動発表やポスターセッションなどを実施している。

もちろん、現地学習では乗馬やゲルの宿泊といった生活体験、新モンゴル園との交流、日本大使館での発表会など、多彩な活動が行われる。小塩先生は、「GLPの大きな特徴は同世代交流です。異国の同年代の若者たちとの深い親睦が生徒の満足度や刺激につながっています」と語る。

このほかにも、ニュージーランドなどの留学プログラムも用意している。そうしたプログラムを支えているのは、同校がいち早く導入したICT教育だ。生徒は入学時に1人1台ずつ購入するiPadで情報共有アプリ「Classi」を現地で活用することなどで、日本からのサポートを受けながら、留年せずに大学受験に備えることもできる。

GLPや新しいグローバルコース、ICTの活用など、常に先進的な取り組みを展開する同校の教育について、榎並校長はこう話す。

「当校の強みは、トップダウンではなく、教員同士が話し合い、深く理解したうえで新しいことに挑戦できる風土があることです。今後も教員が一体となって生徒の成長に繋がられるものであれば貪欲に導入を図っていきたいと考えています」



写真はタイ・フィールド実践プログラムでの現地生徒とのグループワークシーン。同世代交流を基本におく同校のグローバルプログラムを象徴するシーンだ

